

東国全札所お砂踏み たなか踏基

平成十七年十一月三日(水)文化の日、その日は例年の如く晴れの特異日であった。群馬藤岡の我家の菩提寺、光明寺の佐光住職の勧めにより、関東八十八カ所霊場開創十周年記念法要に家内と一緒に参加した。場所は高輪の高野山東京別院である。

何も知らず存ぜぬの罰当たり、お砂踏みなる法要の何たるかも知らず、東京別院に行くのも初めてなら、巡礼旅未経験のまま、粗野丸出してこれもままよ度胸だとたかをくくって家をでた。

案内チケットに以下の文言が印刷されていた。

▲関東八十八カ所霊場の御本尊様掛軸とお砂を一同にお祀りして、お砂踏みを開催します。関東八十八カ所各寺院をご参拝したのと同じだけの功德があるといわれておりますので、是非この機会にご参拝下さい。つまり、お砂踏みとは、東国全札所の遍路旅で巡礼したのと同じ御利益や功德が、東京別院一カ所で済ますことができる特別な難い法要なのだ誘っていたからである。

上野駅で乗り換えて、山手線で品川駅の高輪口に下りるところまでは、家内と喧嘩もせず順調であった。チケット裏側に簡単な、東京別院までの地図が印刷されていた。二人の高輪界限の経験の差が、地図読取の解釈の差となつて、口喧嘩となつた。

私は品川駅から第一京浜(国道十五号線)沿いで行くことを始め主張した。家内は、騒音の国道沿いは煩いから嫌だといって、途中高輪プリンスホテルに至るなどかな登り坂を上っていくことを主張した。家内の意見に折れ、妥協して途中のホテル前まで同行した。私は家内に付いて行ったが、どうも道は違ふと思ひ込み、一人引き返し高輪公園に行く石段を下り、元英国公使館があったと山門に記され

た、東禅寺前に出て、東京別院に無事着いたのである。お砂踏の法要の受付は既に始まっていた。

▲私の経路が正解で早かった！と一人ほくそ笑んで家内を待った。ところが頑固に分かれた家内は二十分待たが中々姿を現さないのである。

携帯電話で連絡してみると、未だ歩いてる模様、然も家内も遠回りを悟り私と同じ道を引き返して此方に向つて居る様子。私は益々内心「ヤリ」得意顔になつて、別院境内を散策する余裕を得ていた。境内お大師様の大きな像の前に、四国札所の一番札所「霊山寺」八十八番「大窪寺」までの全霊場の寺名を刻む八十八ヶの石碑があった。

本堂に設けられた、お砂踏み場の風景は、初めての経験だった為か少し異様な感じがした。

何故ならずりと高崎の一番札所「慈願院」から、最後妻沼の八十八番の札所「聖天山 歡喜院」まで細い通路が奥まで続いていた。目の前の札所本尊掛軸、床に白布のお砂入り座布団、白布を敷いた台の上に線香立て、花台と蝋燭立て、そこに線香の煙が揺らぎ、蝋燭が灯り、札所毎に異なる御詠歌の文字が記され、そして人々の浄財の小銭が小山となつて白布の台に乗っている。各札所である者は座り、ある者は立位で「南無大師遍照金剛」を三回唱え合掌して拝み、お砂布団を踏みながら、一番毎に移動の動作を繰り返して進む。細い通路の中を、御詠歌のテープ音が繰り返して流されていた。終了すると出口で、三人の僧侶から「散華」と記したお砂踏結願之証他を入れた記念の封筒一式が一人一人に渡されたのである。別院山門を左折、蕎麦屋で昼飯とし、高輪警察署前を通り、新高輪プリンスホテル経由で品川駅に出て帰途に着いた。

「この直ぐ傍まで来ていたのよー」

家内が辿ってきた見覚えの道に気付き、後戻りしたことを仕切りに残念がったのは言つてもない。

同封の本「東国へんろ」から以下引用する。

遍路とは、お大師様を慕い共に歩む同行二人の道であるそう。巡礼のメッカ、四国霊場八十八カ所は、弘仁六年(八一五年)、弘法大師四十二歳の時に開創されたとされている。

遍路の起りには、お大師様の没後、弟子の真済が遺跡を巡礼したとか、衛門三郎が罪を悟つて四国の霊地を巡つたのが始まり等の諸説がある。平安時代の末頃から、大師ゆかりの地、四国辺地を巡礼することが修行僧の間に起り、鎌倉室町期に一般庶民も参加するようになり、八十八カ所霊場が固定したのは江戸初期であるらしい。

お砂踏みの起源は、四国八十八カ所札所の遍路旅の簡易版として始まったよつである。四国の山野を断食修行で難行苦行の末に踏破した、弘法大師の威徳を偲ぶために、境内一カ所に霊場の仏様を点在させ、又は霊場の御本尊様と御土砂を勧請し、四国まで行かれない巡礼者のために開設された新たな形式の法要と聞く。京都等の弘法大師ゆかりの古刹、真言宗の寺院で盛んに行なわれている。

八十八の数字の起りには、まさに諸説あつて定まらない。八十八使の煩惱に由来するとか、三十五仏と五十五仏の合算説、印度の根本八塔の十倍に根本の八塔を加えた数字説、米の字の分解説、男の厄年四十一、女三十三、子供十三の合算説等である。

弘仁年間(八一〇～八一四)、弘法大師が東国各地を巡錫し、諸仏を造頭開眼し、早魃疫病で悩む人々を救済したことが各寺の縁起式に残されているといふ。東国にも、本四国写しの霊場が各地で開かれた。大師開教以来一九〇年。平成九年に特別霊場四カ寺が参加して平成の大師の道、関東八十八カ所巡りが広まったといふ。